

2023年度の生乳及び牛乳乳製品の 需給見通しと課題について

2023年1月27日



一般社団法人 Jミルク
Japan Dairy Association (J-milk)

本見通しの趣旨

本見通しは、ARIMA モデル（短期予測モデル）から得られた推計値ならびに関係者からのヒアリング等に基づき算出したものであり、酪農乳業界としての需給に係る課題を抽出し、その課題対応の取り組みや検討の協議に資することを目的としている。

※業界としての今後の需要拡大に係る取り組み等、現時点で推計したり、成果を見通したりすることが困難な要素については加味していない。

本見通しの前提

1. 生乳生産予測（P 3～4 の説明）

- (1) 北海道及び都府県の予測値は、2022 年 11 月までの生乳生産量データに基づき、累積気温や乳牛頭数（搾乳牛頭数・妊娠頭数）等の要因変数を ARIMA モデルに組み込んだ予測モデルによる推計値を基本に算出。なお、2023 年度の気温は、「猛暑」で設定。また、2023 年度の予測について、北海道は、北海道農協酪農畜産対策本部委員会（以下、道酪畜対）における生産目標数量を基本に予測、都府県は生産抑制の新たな取り組みは考慮していない。
- (2) 要因変数として採用している搾乳牛頭数は、家畜改良センターの月齢別乳用雌牛頭数（速報値）を基に、季節当月ごとの月齢推移確率（X ヶ月齢の乳用牛について、前月の X-1 ヶ月齢からの平均残存率）を求めて推計。妊娠頭数は、授精頭数及び累積気温等の要因変数を ARIMA モデルに組み込んだ予測モデルにより推計（AR による推計）。

2. 月齢別乳用雌牛頭数の推移と出生頭数（P 5～6 の説明）

家畜改良センターの月齢別乳用雌牛頭数（速報値）を基に、季節月ごとの月齢推移確率（X ヶ月齢の乳用牛について前月の X-1 ヶ月齢からの平均残存率）を求め推計。出生頭数（実績）は家畜改良センターの乳用雌牛頭数（速報値）をまとめた。

3. 牛乳等生産量予測（P 7～9 の説明）

各々の予測値は、2022 年 11 月までの生産量データに基づき、人口、価格、累積気温、平日日数等の要因変数、ARIMA モデルに組み込んだ予測モデルによる推計値を基本に算出。さらに、直近の小売 P O S データで確認された変化動向等も考慮した。なお、2023 年度の気温は、「猛暑」で設定。

4. 用途別処理量予測（P 10～12 の説明）

- (1) 生乳供給量は、生乳生産量から自家消費量を差し引いて算出。
- (2) 自家消費量は、各地域の直近までの動向を踏まえ設定。
- (3) 飲用等向処理量は、牛乳、加工乳、成分調整牛乳、乳飲料、はっ酵乳の予測生産量を基に、最近の生乳使用係数を乗じ算出。

5. 脱脂粉乳・バター需給予測（P 13～14 の説明）

- (1) 脱脂粉乳・バターの生産量は、脱脂粉乳・バター等向処理予測数量に、直近の動向等を反映した製造係数（これらの製品単位あたりに実際に使用された生乳数量）を乗じて算出。
- (2) 脱脂粉乳・バターの推定出回り量は、2022 年 11 月までの推定出回り量データに基づき、発酵乳や代替乳製品の動向等の要因変数を ARIMA モデルに組み込んだ予測モデルによる推計値を基本に算出。

(3) 脱脂粉乳・バターの在庫月数は、前年度の1ヶ月平均出回り量を基に算出。

6. 都府県生乳需給予測 (P 15の説明)

(1) 「移入必要量(道外移出量)」は、都府県不足量の補完と、北海道ブランド牛乳製造のための必要乳量等を基本に算出。

(2) 「脱脂粉乳・バター等向処理量」は、「A-B-C」+「移入量」-「移出量」で算出。過去5年間の最低数量や直近の需給状況並びに北海道における脱脂粉乳・バター等仕向の処理能力を加味して算出。

7. 生乳需給の動向 (P 16の説明)

(1) 脱脂粉乳ベース及びバターベースにおける乳製品向生乳需要量は、脱脂粉乳・バターの需要量(推定出回り量)の予測値に製造係数(直近の動向等を反映)を乗じて算出し、これに生クリーム等向、チーズ向の生乳需要量を加算して算出。

(2) 上記の各々の乳製品向生乳需要量に、更に飲用等向生乳需要量を加算して、脱脂粉乳ベースとバターベースの2通りの生乳需要量を算出。

※乳製品乳価引き上げに伴う乳製品価格改定の影響について

本見通しでは、2023年4月からの乳製品向乳価引き上げによる需要の減少について、業務用を中心とした乳製品の価格と需要の相関を企業物価指数と牛乳乳製品統計などを用いて検討し、ARIMAモデルで予測した。

企業物価指数の飲食料全体に対するはっ酵乳、チーズ、生クリーム、脱脂粉乳、バターそれぞれの相対価格指数を算出し、価格が10%改定したときの需要量を予測。よって、需要が減少すると予測しているカテゴリは、牛乳等生産量予測のうちはっ酵乳(P 7~9)、用途別処理量のうちチーズ向、生クリーム等向(P 10~12)、脱脂粉乳・バター需給のうち推定出回り量(P 13~14)とした。

※企業物価指数

日本銀行公表。企業間で取引される財を対象としている。品質を固定した商品(財)の価格を継続的に調査し、現在時点の価格を、基準時点(2020年)の価格を100として、指数化したものである。企業間で取引される商品の価格を指数化した物価指数のこと。

1. 地域別生乳生産量の動向

表1-1：2022年度の地域別生乳生産量（網掛け：実績）

（千トン）

	全 国		北海道		都府県	
		前年比		前年比		前年比
4月	657	102.0%	364	103.5%	293	100.3%
5月	679	101.2%	379	102.5%	299	99.7%
6月	643	100.4%	364	100.8%	279	99.7%
7月	645	101.0%	372	101.5%	274	100.3%
8月	627	99.8%	364	100.9%	263	98.2%
9月	606	98.8%	349	99.1%	257	98.5%
10月	622	98.6%	353	98.5%	269	98.8%
11月	597	97.2%	337	97.0%	260	97.5%
12月	620	96.0%	348	95.1%	271	97.1%
1月	634	97.5%	357	97.2%	277	97.8%
2月	583	97.5%	326	97.1%	257	98.1%
3月	654	97.1%	362	96.5%	291	97.9%
第1四半期	1,978	101.2%	1,107	102.3%	871	99.9%
第2四半期	1,879	99.9%	1,085	100.5%	794	99.0%
第3四半期	1,838	97.2%	1,038	96.8%	801	97.8%
第4四半期	1,870	97.4%	1,045	96.9%	825	97.9%
上期	3,857	100.6%	2,192	101.4%	1,665	99.5%
下期	3,708	97.3%	2,083	96.9%	1,626	97.9%
年度計	7,565	98.9%	4,274	99.1%	3,291	98.7%

表1-2：2023年度の地域別生乳生産量（見通し）

（千トン）

	全 国		北海道		都府県	
		前年比		前年比		前年比
4月	636	96.8%	350	96.2%	286	97.5%
5月	659	97.2%	367	96.8%	292	97.6%
6月	629	97.8%	357	98.2%	271	97.3%
7月	628	97.3%	364	97.9%	264	96.5%
8月	609	97.2%	355	97.4%	254	96.8%
9月	592	97.7%	342	97.9%	250	97.3%
10月	611	98.3%	349	98.8%	262	97.6%
11月	592	99.2%	336	99.8%	256	98.4%
12月	624	100.7%	353	101.5%	271	99.7%
1月	633	99.9%	357	100.1%	276	99.7%
2月	603	103.5%	338	103.7%	265	103.4%
3月	653	99.9%	363	100.1%	290	99.6%
第1四半期	1,924	97.2%	1,074	97.1%	849	97.5%
第2四半期	1,829	97.4%	1,060	97.8%	769	96.8%
第3四半期	1,827	99.4%	1,038	100.0%	789	98.6%
第4四半期	1,889	101.0%	1,057	101.2%	832	100.8%
上期	3,753	97.3%	2,135	97.4%	1,618	97.2%
下期	3,717	100.2%	2,095	100.6%	1,621	99.7%
年度計	7,470	98.7%	4,230	99.0%	3,239	98.4%

【2022年度生乳生産の見通し】 全国 7,565 千トン・前年比 98.9%、北海道 4,274 千トン・同 99.1%、都府県 3,291 千トン・同 98.7%の見通しである。

【2023年度生乳生産の見通し】 全国 7,470 千トン・前年比 98.7%、北海道 4,230 千トン・同 99.0%、都府県 3,239 千トン・同 98.4%の見通しである。全国、北海道、都府県ともに 2 年連続の減産となる見込み。

※なお、北海道は道酪畜対における生産目標数量を基本に予測、都府県は生産抑制の取り組みは考慮していない(2022 年 11 月までは実績として反映)。

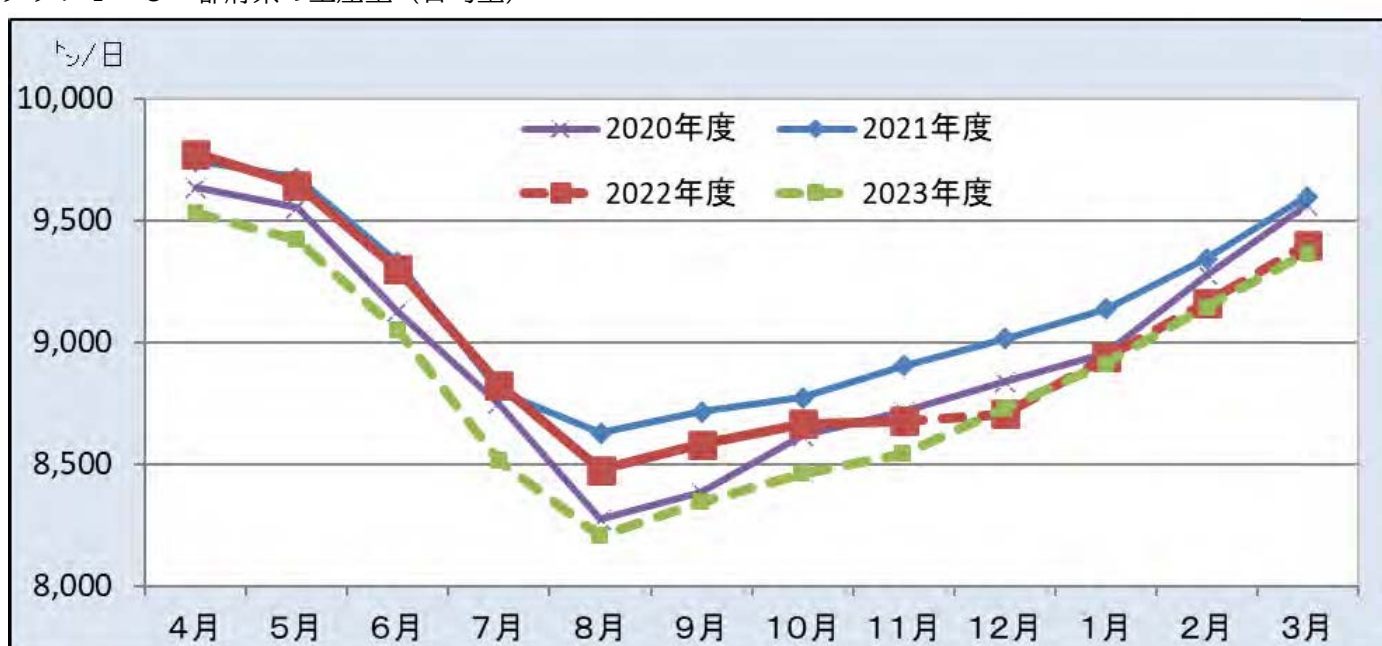
グラフ１－１：全国の生産量（日均量）



グラフ１－２：北海道の生産量（日均量）

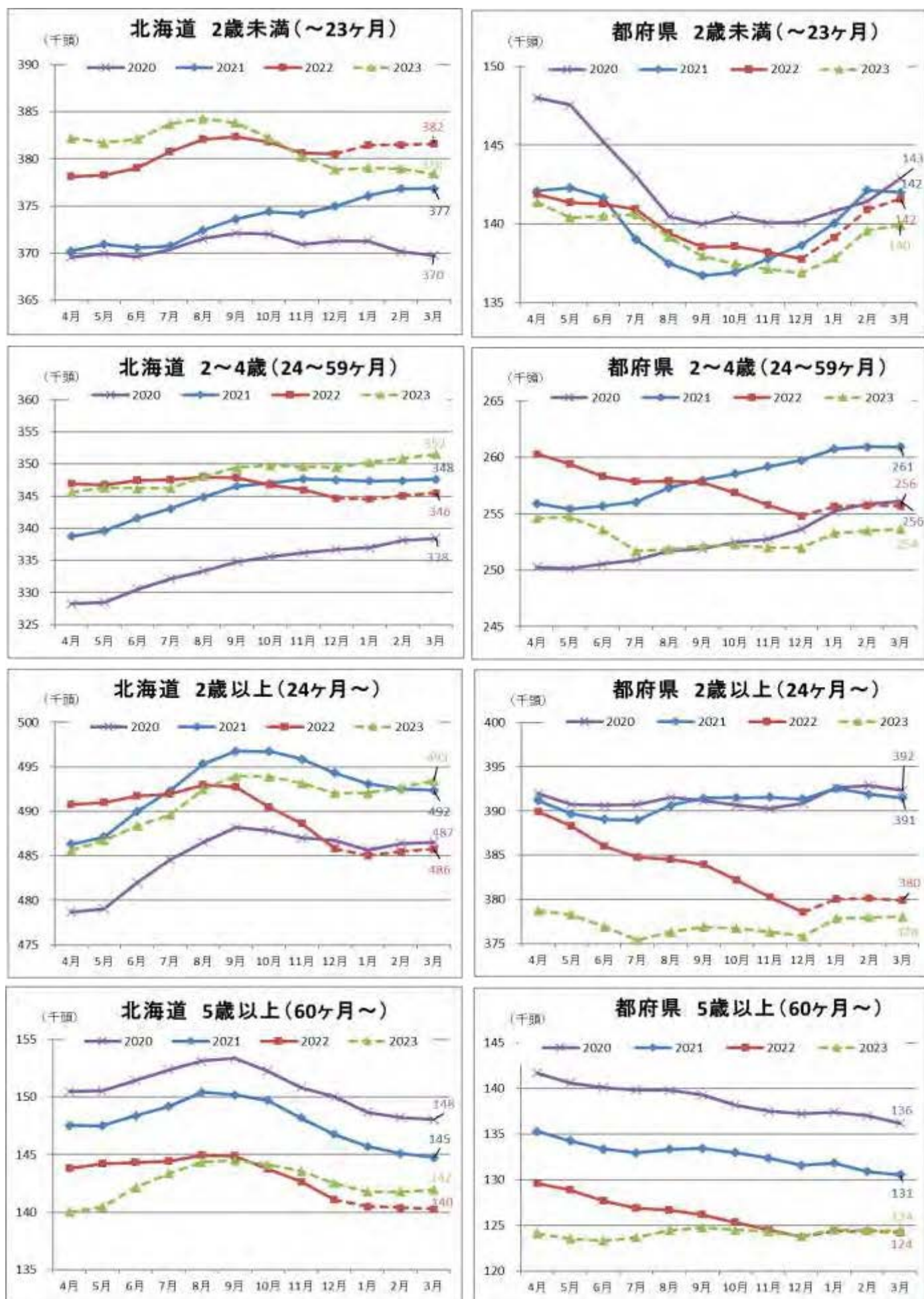


グラフ１－３：都府県の生産量（日均量）

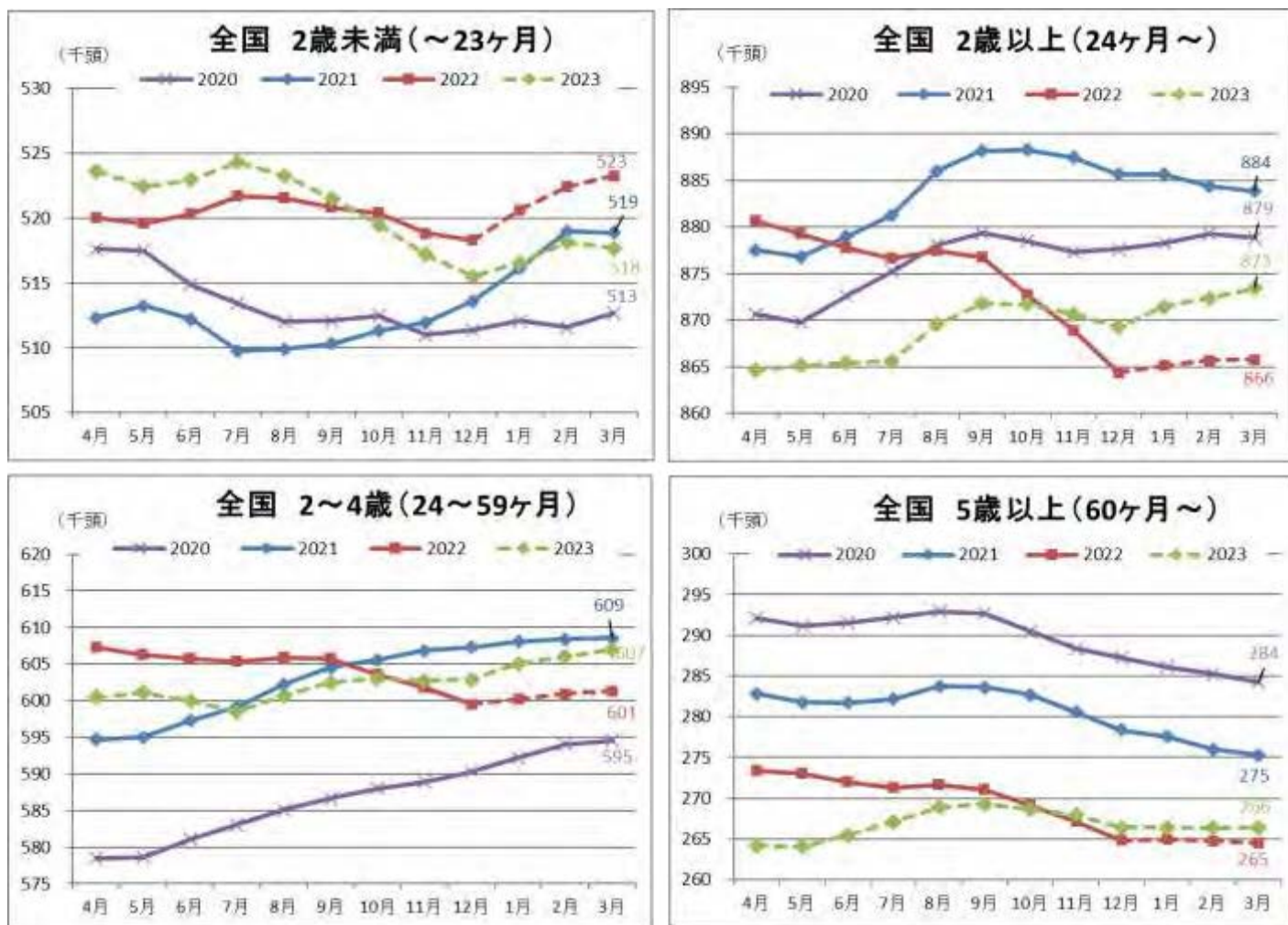


2. 月齢別乳用雌牛頭数の推移と出生頭数

(1) グラフ2-1：北海道と都府県の月齢別乳用雌牛頭数（2022年12月以降見通し）



(2) グラフ 2-2：全国の月齢別乳用雌牛頭数（2022 年 12 月以降見通し）



(3) 表 2-3：乳用雌牛出生頭数（2022 年 11 月まで実績）



【2023 年度の乳用雌牛頭数について】

- ・2 歳未満頭数は北海道で約 4 千頭、都府県で約 2 千頭減少する見通し。全国では秋口以降 2022 年を下回る見通し。
- ・搾乳牛となる 2 歳以上頭数は都府県では約 2 千頭減少、北海道で約 7 千頭増加する見通し。北海道では 9 月以降 2022 年度を上回る予測であり、主力となる 2～4 歳についても同様の傾向となっている。
- ・5 歳以上頭数については、北海道は若干上回る見通しにあるが、都府県は 2022 年度同水準となる見通し。
- ・なお、2022 年 11 月までの乳用雌牛累計出生頭数は、北海道は前年同期比 97.1%、都府県は同 96.0%、全国では 96.8%と減少している。

3. 牛乳等生産量の動向

表3－1：2022年度の牛乳等生産量（網掛け：実績）

(千kl)

	牛乳類		牛乳										加工乳		成分調整牛乳		乳飲料		はっ酵乳	
			牛乳		学乳		学乳以外		うち、業務用		うち、業務用以外									
	前年比	前年比							前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	
4月	379	100.0%	261	100.5%	26	95.0%	235	101.2%	24	97.0%	211	101.7%	10	112.0%	21	97.2%	87	97.9%	82	90.8%
5月	398	98.8%	275	98.9%	35	100.5%	241	98.7%	25	101.5%	216	98.4%	10	110.7%	22	95.2%	90	98.0%	84	92.8%
6月	397	97.9%	275	97.7%	39	97.7%	236	97.8%	22	93.7%	214	98.2%	10	107.3%	22	95.8%	91	97.8%	83	93.2%
7月	397	98.8%	270	99.7%	22	95.7%	248	100.0%	22	89.1%	226	101.2%	10	102.2%	23	98.2%	94	96.2%	83	93.5%
8月	391	100.7%	261	100.8%	7	119.2%	255	100.4%	26	96.8%	229	100.8%	11	119.2%	22	96.1%	96	99.6%	82	95.1%
9月	402	99.6%	277	99.9%	34	102.7%	243	99.5%	25	94.9%	219	100.0%	11	111.6%	22	96.6%	92	98.3%	81	94.1%
10月	403	99.6%	281	100.0%	36	97.1%	245	100.4%	29	103.1%	216	100.1%	12	114.0%	21	97.2%	89	97.3%	81	93.5%
11月	376	99.7%	260	98.4%	35	98.8%	224	98.3%	27	101.1%	197	97.9%	13	114.8%	20	97.1%	84	102.6%	74	91.1%
12月	359	97.6%	246	96.0%	30	101.1%	216	95.3%	25	103.6%	191	94.3%	12	106.6%	19	92.3%	82	102.9%	72	92.4%
1月	362	96.8%	249	95.2%	29	104.8%	221	94.1%	23	100.6%	198	93.4%	11	108.2%	19	91.0%	82	102.1%	76	92.5%
2月	342	98.1%	238	96.9%	33	107.1%	205	95.4%	22	99.4%	183	95.0%	10	106.2%	18	90.6%	76	103.0%	73	93.8%
3月	370	97.6%	251	96.5%	24	104.0%	227	95.7%	26	96.1%	201	95.7%	11	104.7%	19	89.8%	88	102.1%	83	95.1%
第1四半期	1,175	98.9%	811	99.0%	100	97.9%	711	99.2%	71	97.4%	641	99.4%	31	110.0%	65	96.1%	268	97.9%	249	92.3%
第2四半期	1,189	99.7%	809	100.1%	63	101.6%	746	100.0%	72	93.7%	674	100.7%	31	110.8%	67	97.0%	282	98.0%	246	94.2%
第3四半期	1,138	99.0%	786	98.2%	100	98.9%	686	98.1%	81	102.6%	604	97.5%	37	111.7%	60	95.6%	255	100.8%	227	92.4%
第4四半期	1,074	97.5%	739	96.2%	86	105.4%	653	95.1%	71	98.5%	582	94.7%	33	106.3%	57	90.5%	245	102.4%	232	93.8%
上期	2,364	99.3%	1,620	99.6%	163	99.3%	1,458	99.6%	143	95.5%	1,315	100.1%	62	110.4%	132	96.5%	550	98.0%	495	93.2%
下期	2,213	98.3%	1,525	97.2%	186	101.8%	1,339	96.6%	153	100.6%	1,186	96.1%	70	109.1%	117	93.0%	501	101.6%	459	93.1%
年度計	4,577	98.8%	3,145	98.4%	349	100.6%	2,797	98.1%	296	98.1%	2,501	98.1%	132	109.7%	249	94.8%	1,051	99.7%	955	93.2%

表3－2：2023年度の牛乳等生産量（見通し）

(千kl)

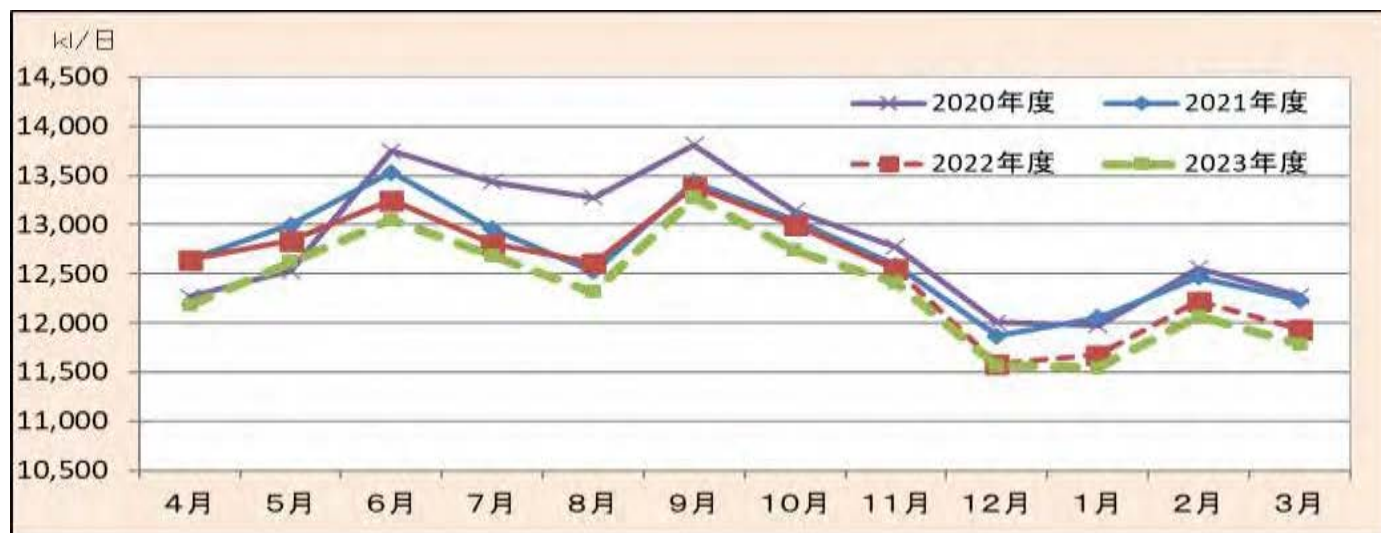
	牛乳類		牛乳										加工乳		成分調整牛乳		乳飲料		はっ酵乳	
			学乳		学乳以外															
	前年比	前年比	前年比	前年比	うち、業務用		うち、業務用以外		前年比	前年比	前年比	前年比								
4月	365	96.3%	248	95.0%	25	95.3%	223	94.9%	24	101.7%	198	94.1%	11	107.9%	19	90.7%	87	100.4%	82	99.9%
5月	391	98.3%	268	97.3%	35	100.8%	233	96.8%	24	97.4%	209	96.7%	11	107.2%	20	93.4%	92	101.7%	83	99.5%
6月	391	98.5%	269	97.8%	39	100.5%	230	97.3%	22	101.5%	207	96.9%	10	102.5%	20	94.9%	92	101.0%	82	98.4%
7月	393	99.1%	264	97.8%	23	102.0%	242	97.4%	22	101.9%	220	97.0%	10	105.8%	22	96.1%	97	102.8%	81	97.5%
8月	382	97.7%	252	96.3%	6	91.1%	246	96.5%	24	94.0%	222	96.7%	11	98.4%	22	96.4%	97	101.5%	78	94.7%
9月	398	99.2%	272	98.1%	33	98.0%	239	98.1%	26	103.8%	213	97.5%	11	100.8%	21	94.7%	95	103.4%	78	96.7%
10月	395	98.0%	273	97.2%	35	99.3%	237	96.9%	26	91.1%	211	97.6%	11	96.5%	20	91.7%	91	102.2%	78	96.6%
11月	372	98.9%	260	100.3%	35	100.6%	225	100.2%	27	99.1%	198	100.4%	12	93.6%	18	91.4%	82	97.3%	72	97.1%
12月	358	99.8%	250	101.6%	30	99.9%	220	101.9%	26	101.7%	195	101.9%	12	100.2%	17	92.0%	79	96.2%	69	96.9%
1月	358	98.9%	250	100.2%	28	99.6%	222	100.3%	23	97.8%	199	100.6%	11	97.9%	18	94.0%	79	96.3%	74	97.2%
2月	350	102.2%	246	103.3%	33	100.7%	213	103.7%	23	101.1%	190	104.0%	10	102.1%	18	97.6%	76	100.0%	74	100.7%
3月	365	98.7%	251	99.8%	24	99.3%	227	99.8%	25	96.7%	202	100.2%	11	98.4%	18	94.2%	85	96.8%	81	97.1%
第1四半期	1,148	97.7%	784	96.7%	99	99.3%	685	96.3%	71	100.1%	615	95.9%	32	105.9%	60	93.0%	271	101.1%	247	99.3%
第2四半期	1,173	98.7%	788	97.4%	62	98.7%	726	97.3%	72	99.8%	654	97.0%	32	101.6%	64	95.8%	289	102.6%	237	96.3%
第3四半期	1,126	98.9%	783	99.6%	100	99.9%	683	99.5%	79	97.1%	604	99.9%	36	96.7%	55	91.7%	252	98.6%	220	96.9%
第4四半期	1,073	99.9%	747	101.1%	86	99.9%	661	101.2%	70	98.4%	591	101.6%	33	99.4%	54	95.2%	239	97.6%	228	98.3%
上期	2,321	98.2%	1,573	97.1%	161	99.1%	1,412	96.8%	143	99.9%	1,269	96.5%	64	103.7%	124	94.4%	560	101.8%	484	97.8%
下期	2,199	99.4%	1,530	100.3%	186	99.9%	1,344	100.4%	149	97.7%	1,195	100.7%	68	98.0%	109	93.4%	491	98.1%	448	97.6%
年度計	4,520	98.8%	3,103	98.8%	347	99.5%	2,755	98.5%	292	98.8%	2,463	98.5%	133	100.7%	234	93.9%	1,051	100.1%	933	97.7%

【2022年度の牛乳等生産量の見通し】 「牛乳類」は4,577千kl・前年比98.8%。内訳として、「牛乳」3,145千kl・同98.4%、「加工乳」132千kl・同109.7%、「成分調整牛乳」249千kl・同94.8%、「乳飲料」1,051千kl・同99.7%。「はっ酵乳」は、955千kl・同93.2%と見込んだ。

【2023年度の牛乳等生産量の見通し】 「牛乳類」は4,520千kl・前年比98.8%。内訳として、「牛乳」3,103千kl・同98.6%、「加工乳」133千kl・同100.7%、「成分調整牛乳」234千kl・同93.9%、「乳飲料」1,051千kl・同100.1%。「はっ酵乳」は、933千kl・同97.7%と見込んだ。

※はっ酵乳は乳製品乳価引き上げとこれまでの需要減少の相関を基に4月以降の需要を推定して予測。

グラフ 3-1：牛乳類（牛乳・加工乳・成分調整牛乳・乳飲料）の生産量（日均量）



グラフ 3-2：牛乳の生産量（日均量）



グラフ 3-3：学乳の生産量（日均量）



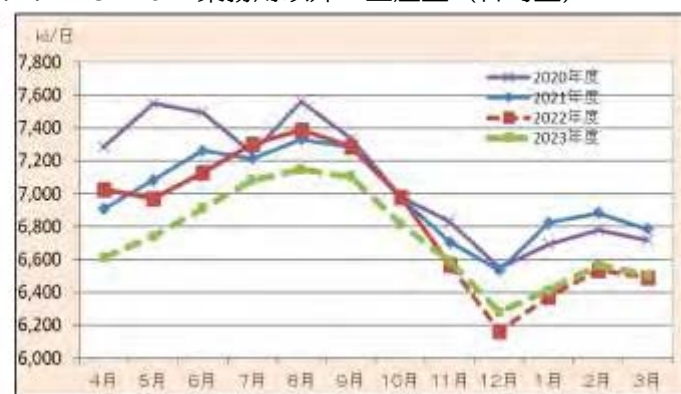
グラフ 3-4：学乳以外の生産量（日均量）



グラフ 3-5：業務用の生産量（日均量）



グラフ 3-6：業務用以外の生産量（日均量）



グラフ３－７：加工乳の生産量（日均量）



グラフ３－８：成分調整牛乳の生産量（日均量）



グラフ３－９：乳飲料の生産量（日均量）



グラフ３－１０：はっ酵乳の生産量（日均量）



4. 用途別処理量の動向

表4-1：2022年度の生乳供給量及び用途別処理量（網掛け：実績）

（千トン）

	生乳生産量		自家消費量		生乳供給量		飲用等向		乳製品向 （認定ベース）		脱脂粉乳・バター等向		チーズ向		生クリーム等向	
		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比
4月	657	102.0%	4	91.0%	653	102.1%	333	100.1%	320	104.3%	179	105.9%	38	98.4%	104	103.8%
5月	679	101.2%	4	91.6%	675	101.3%	350	98.9%	325	104.1%	180	105.2%	40	108.6%	105	100.7%
6月	643	100.4%	4	91.5%	639	100.4%	348	97.7%	291	103.8%	150	105.3%	38	105.4%	103	101.3%
7月	645	101.0%	4	89.0%	642	101.1%	350	101.4%	291	100.6%	145	100.6%	40	107.9%	107	98.1%
8月	627	99.8%	4	90.6%	623	99.8%	336	100.4%	288	99.2%	148	98.3%	38	105.3%	102	98.4%
9月	606	98.8%	4	93.6%	602	98.9%	349	99.9%	253	97.4%	117	94.8%	35	102.5%	101	99.0%
10月	622	98.6%	4	96.3%	618	98.6%	353	99.5%	265	97.4%	123	95.0%	35	97.5%	107	100.4%
11月	597	97.2%	4	93.7%	593	97.2%	325	98.8%	268	95.4%	126	91.7%	36	109.2%	107	95.9%
12月	620	96.0%	4	96.3%	616	96.0%	307	96.0%	309	95.9%	167	95.2%	39	100.8%	103	95.3%
1月	634	97.5%	4	97.9%	629	97.4%	317	95.3%	312	99.8%	176	100.5%	37	101.9%	99	97.7%
2月	583	97.5%	4	97.8%	579	97.5%	300	96.7%	279	98.4%	152	96.8%	34	102.7%	92	99.7%
3月	654	97.1%	4	97.3%	650	97.1%	320	96.3%	331	97.9%	188	98.3%	37	92.8%	106	99.2%
第1四半期	1,978	101.2%	11	91.4%	1,967	101.3%	1,031	98.9%	936	104.1%	508	105.5%	116	104.0%	312	101.9%
第2四半期	1,879	99.9%	11	91.0%	1,867	99.9%	1,035	100.6%	832	99.1%	410	98.0%	113	105.3%	309	98.5%
第3四半期	1,838	97.2%	12	95.4%	1,827	97.3%	984	98.2%	842	96.2%	416	94.1%	110	102.3%	316	97.2%
第4四半期	1,870	97.4%	12	97.7%	1,858	97.4%	937	96.1%	922	98.7%	516	98.6%	109	98.9%	297	98.8%
上期	3,857	100.6%	23	91.2%	3,834	100.6%	2,066	99.7%	1,768	101.7%	918	102.0%	229	104.7%	621	100.2%
下期	3,708	97.3%	23	96.5%	3,685	97.3%	1,921	97.1%	1,764	97.5%	931	96.5%	219	100.6%	614	98.0%
年度計	7,565	98.9%	46	93.8%	7,519	99.0%	3,987	98.5%	3,532	99.6%	1,849	99.2%	448	102.6%	1,235	99.1%

表4-2：2023年度の生乳供給量及び用途別処理量（見通し）

（千トン）

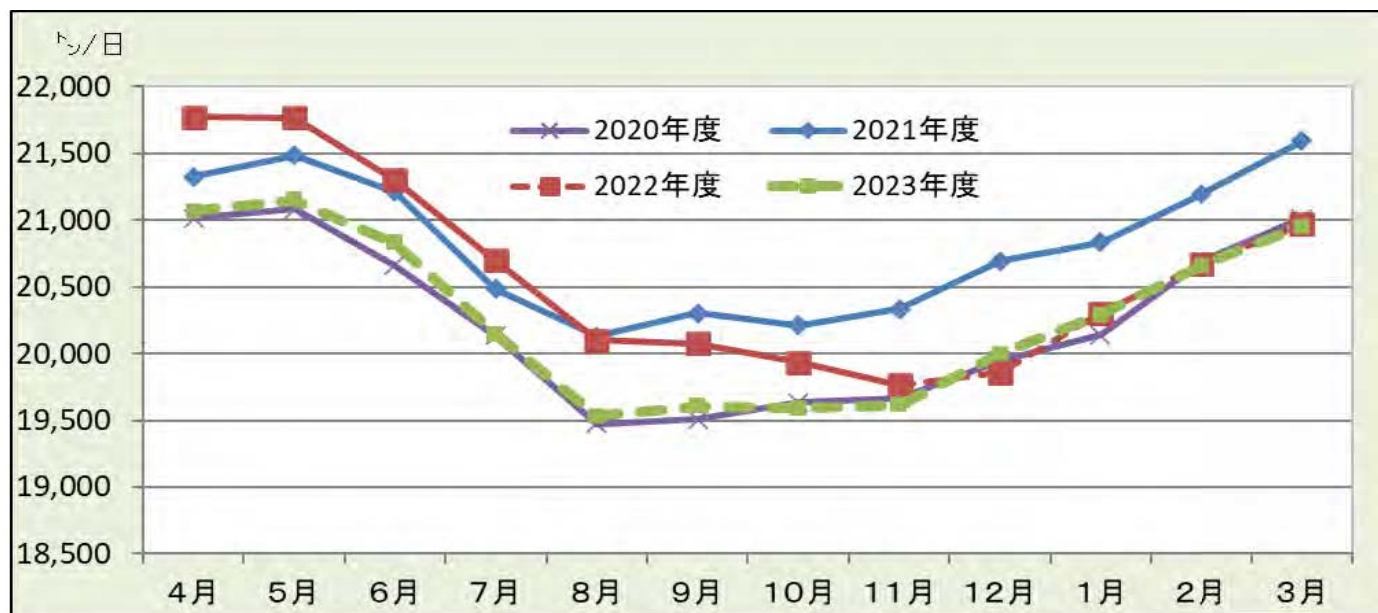
	生乳生産量		自家消費量		生乳供給量		飲用等向		乳製品向 （認定ベース）		脱脂粉乳・バター等向		チーズ向		生クリーム等向	
		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比
4月	636	96.8%	4	96.9%	632	96.8%	317	95.4%	315	98.3%	175	98.0%	37	98.5%	102	98.7%
5月	659	97.2%	4	97.3%	656	97.2%	341	97.5%	315	96.8%	173	96.2%	39	97.6%	103	97.7%
6月	629	97.8%	4	97.9%	625	97.8%	341	97.9%	284	97.7%	145	96.6%	38	98.9%	102	99.0%
7月	628	97.3%	4	97.3%	624	97.3%	344	98.0%	281	96.4%	141	97.2%	38	95.5%	102	95.7%
8月	609	97.2%	4	97.0%	605	97.2%	324	96.6%	281	97.9%	145	98.1%	37	97.4%	100	97.6%
9月	592	97.7%	4	97.5%	588	97.7%	342	98.1%	246	97.0%	114	97.3%	34	96.6%	98	96.8%
10月	611	98.3%	4	98.3%	607	98.3%	342	97.1%	265	99.9%	124	100.6%	35	99.1%	106	99.2%
11月	592	99.2%	4	99.1%	588	99.2%	323	99.4%	266	99.0%	127	101.1%	35	97.1%	104	97.3%
12月	624	100.7%	4	100.5%	620	100.7%	309	100.5%	311	100.8%	174	104.4%	38	96.5%	100	96.7%
1月	633	99.9%	4	99.9%	629	99.9%	315	99.5%	314	100.4%	182	103.8%	36	95.7%	95	96.0%
2月	603	103.5%	4	103.5%	599	103.5%	308	102.7%	291	104.5%	171	111.9%	33	95.3%	88	95.5%
3月	653	99.9%	4	99.8%	649	99.9%	317	99.1%	333	100.6%	197	104.8%	35	94.9%	101	95.2%
第1四半期	1,924	97.2%	11	97.3%	1,913	97.2%	999	96.9%	913	97.6%	493	96.9%	114	98.3%	307	98.5%
第2四半期	1,829	97.4%	11	97.3%	1,818	97.4%	1,010	97.6%	808	97.1%	400	97.6%	109	96.5%	299	96.7%
第3四半期	1,827	99.4%	12	99.3%	1,816	99.4%	974	98.9%	842	100.0%	425	102.3%	108	97.5%	309	97.8%
第4四半期	1,889	101.0%	12	101.1%	1,878	101.0%	940	100.4%	937	101.7%	550	106.6%	104	95.3%	284	95.6%
上期	3,753	97.3%	22	97.3%	3,731	97.3%	2,010	97.3%	1,721	97.4%	892	97.2%	223	97.4%	606	97.6%
下期	3,717	100.2%	24	100.2%	3,693	100.2%	1,914	99.6%	1,779	100.9%	975	104.7%	211	96.4%	593	96.7%
年度計	7,470	98.7%	46	98.8%	7,424	98.7%	3,923	98.4%	3,501	99.1%	1,867	101.0%	434	96.9%	1,200	97.1%

【2022年度の用途別処理量の見通し】「生乳供給量」は7,519千トン・前年比99.0%、「飲用等向処理量」は3,987千トン・同98.5%、「乳製品向処理量」は3,532千トン・同99.6%と見込んだ。乳製品向のうち、「チーズ向」は448千トン・同102.6%、「生クリーム等向」は1,235トン・同99.1%、「脱脂粉乳・バター等向」は、1,849千トン・同99.2%となる見通し。

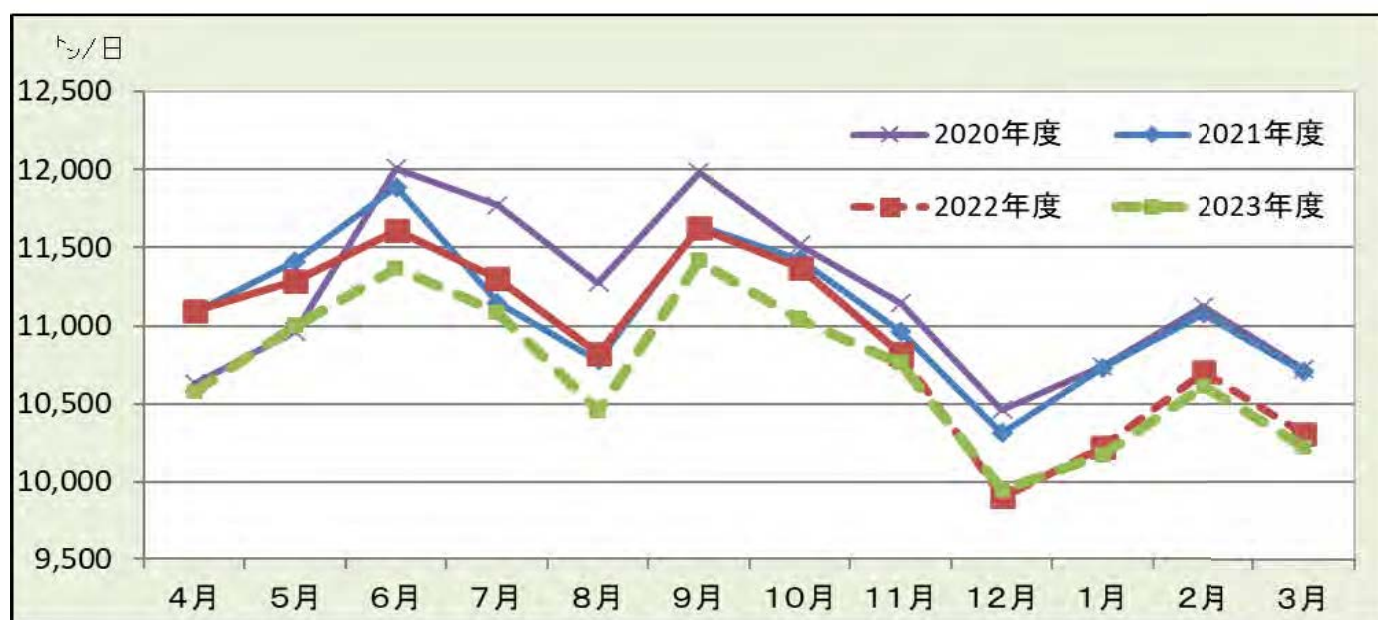
【2023年度の用途別処理量の見通し】「生乳供給量」は7,424千トン・前年比98.7%、「飲用等向処理量」は3,923千トン・同98.4%、「乳製品向処理量」は3,501千トン・同99.1%と見込んだ。乳製品向のうち、「チーズ向」は434千トン・同96.9%、「生クリーム等向」は1,200トン・同97.1%、「脱脂粉乳・バター等向」は、1,867千トン・同101.0%と前年を上回る見通し。

※チーズ向、生クリーム等向は、乳製品乳価引き上げとこれまでの需要減少の相関を基に4月以降の需要減少を推定して予測。

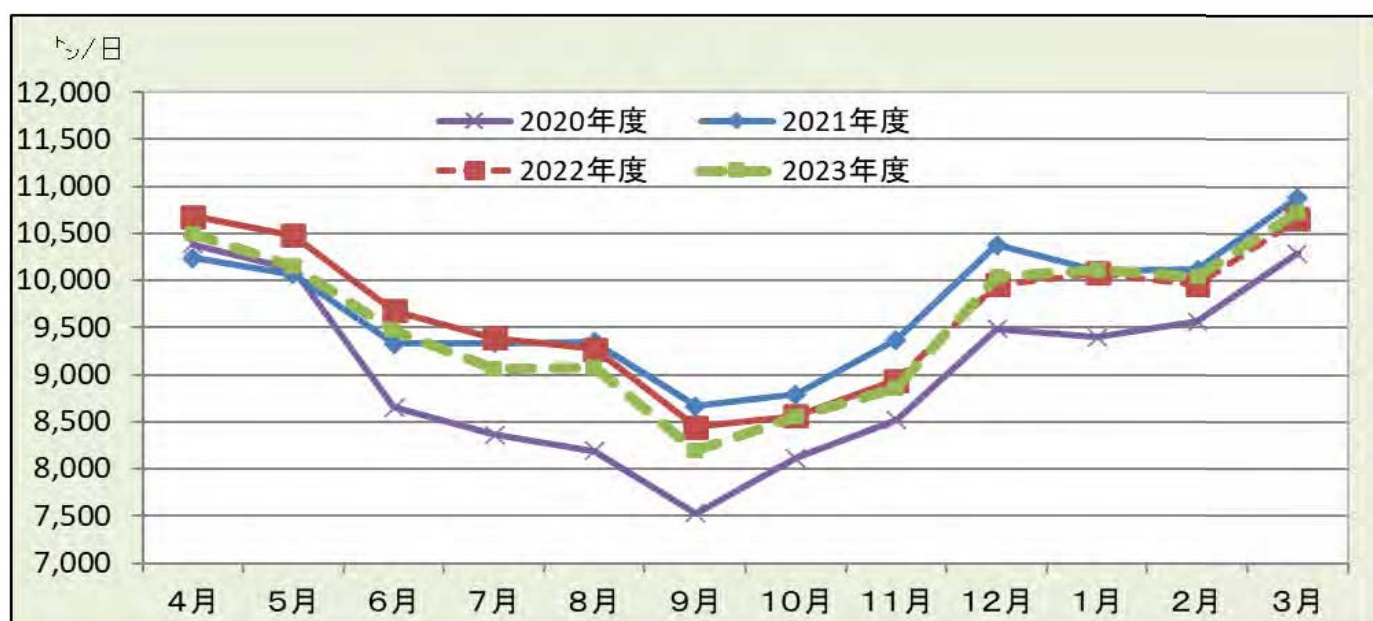
グラフ４－１：生乳供給量（日均量）



グラフ４－２：飲用等向生乳処理量（日均量）



グラフ４－３：乳製品等向生乳処理量（日均量）



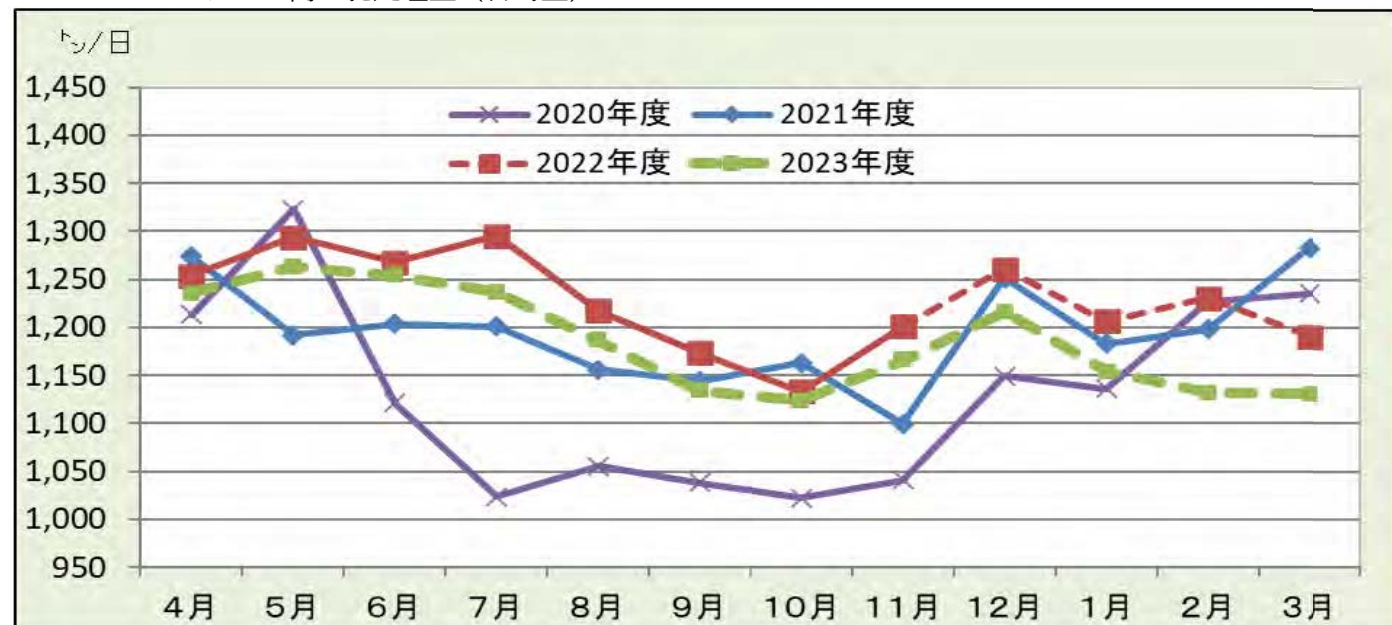
グラフ４－４：生クリーム等向・チーズ向生乳処理量（日均量）



グラフ４－５：生クリーム等向生乳処理量（日均量）



グラフ４－６：チーズ向生乳処理量（日均量）



5. 乳製品需給の動向

表5-1：2022年度の脱脂粉乳の需給（網掛け：実績）

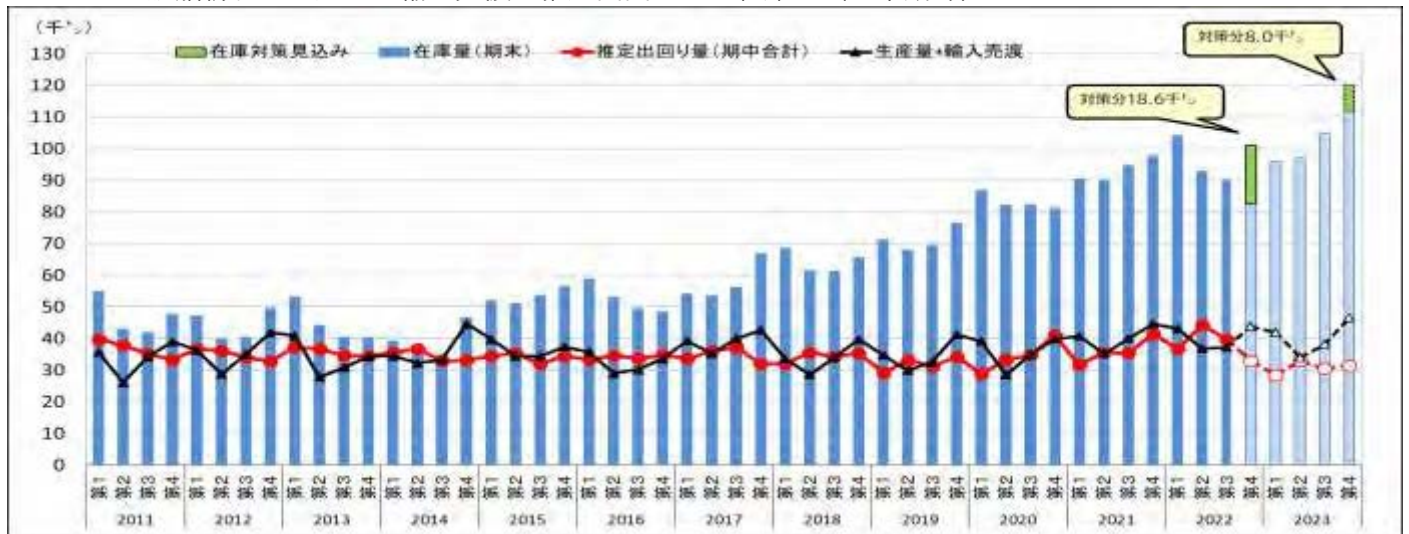
	期首在庫量		生産量		輸入 売渡し C	過不足 B+C-D	期末在庫量			推定出回り量	
	A	前年比	B	前年比			A+B+C-D	月数	前年比	D	前年比
第 1 四半期	97.7	120.3%	43.1	107.1%	0.1	6.4	104.1	8.7	115.2%	36.8	116.5%
第 2 四半期	104.1	115.2%	34.1	97.1%	0.0	-11.2	92.8	7.7	103.2%	45.4	127.4%
第 3 四半期	92.8	103.2%	37.2	93.0%	0.0	-2.5	90.3	7.5	95.4%	39.8	112.6%
第 4 四半期	90.3	95.4%	43.7	98.6%	0.0	10.8	101.1	8.4	103.5%	32.9	79.7%
上期	97.7	120.3%	77.2	102.4%	0.1	-4.9	92.8	7.7	103.2%	82.2	122.3%
下期	92.8	103.2%	80.9	95.9%	0.1	8.3	101.1	8.4	103.5%	72.7	94.8%
年度計	97.7	120.3%	158.1	99.0%	0.2	3.4	101.1	8.4	103.5%	154.9	107.7%
							82.5	6.9	84.5%	173.5	120.6%
							※ホクレンの対策+ALIC・生処（Jミルク）での 対策を考慮した推計値			※各対策分を考慮した出回り 量	

表5-2：2023年度の脱脂粉乳の需給（見通し）

	期首在庫量		生産量		輸入 売渡し	過不足	期末在庫量			推定出回り量	
	A	前年比	B	前年比			C	B+C-D	A+B+C-D	月数	前年比
第1四半期	82.5	84.5%	41.7	96.9%	0.1	13.4	96.0	7.4	92.2%	28.4	77.1%
第2四半期	96.0	92.2%	33.3	97.6%	0.7	1.2	97.1	7.5	104.7%	32.9	72.4%
第3四半期	97.1	104.7%	38.0	102.3%	0.0	7.6	104.8	8.1	116.0%	30.4	76.6%
第4四半期	104.8	116.0%	46.6	106.6%	0.0	15.2	120.0	9.3	118.7%	31.4	95.4%
上期	82.5	84.5%	75.0	97.2%	0.8	14.6	97.1	7.5	104.7%	61.2	74.5%
下期	97.1	104.7%	84.6	104.6%	0.1	22.9	120.0	9.3	118.7%	61.9	85.1%
年度計	82.5	84.5%	159.7	101.0%	0.9	37.5	120.0	9.3	118.7%	123.1	79.5%

112.0	8.7	110.8%	131.1	84.6%
※2022年度ALIC・生処（Jミルク）での対策のうち2023年度となる出回り量を考慮した推計値			※各対策分を考慮した出回り量	

グラフ5：脱脂粉乳の生産量・輸入売渡・推定出回り量・在庫量（四半期毎）



【2022年度の脱脂粉乳需給の見通し】生産量は158.1千ト・前年比99.0%、推定出回り量(12月以降の対策除く)は154.9千ト・同107.7%となる見通し。輸入売渡しは0.2千トと仮定(※)し、年度末在庫量は101.1千ト・同103.5%(対策込みでは82.5千ト・84.5%)となる見通しである。在庫量については、国から支援を得た中での業界協調の在庫削減対策やホクレンが取り組む需要確保対策により、年間で約40.5千トの削減効果を見込んでいる(上記出回り量に4-11月の対策見込含む(約21.9千ト))。

【2023年度の脱脂粉乳需給の見通し】生産量は159.7千ト・前年比101.0%、推定出回り量は123.1千ト(対策除く)・同79.5%となる見通し。輸入売渡しは0.9千トと仮定(※)し、年度末在庫量は120.0千ト・同118.7%(対策込みでは112.0千ト・110.8%)となる見通しである。在庫量については、2022年度の業界協調の在庫削減対策のうち2023年度の出回りとなる数量8.0千トを見込みに反映、2023年度事業分は考慮していない。

※推定出回り量は、乳製品乳価引き上げとこれまでの需要減少の相関を基に4月以降の需要を推定して予測。

※2022年度枠残量から輸入売渡を推定、2023年度枠の輸入売渡およびTPP11、日EU・EPAによる民間貿易については、加味していない。

表5'-1: 2022年度のバターの需給(網掛け:実績)

(千トン)

	期首在庫量		生産量		輸入 売渡し	過不足	期末在庫量			推定出回り量	
	A	前年比	B	前年比	C	B+C-D	A+B+C-D	月数	前年比	D	前年比
第1四半期	39.6	101.8%	21.0	105.5%	2.0	2.2	41.8	6.0	98.9%	20.7	107.8%
第2四半期	41.8	98.9%	16.5	100.0%	2.2	-2.7	39.0	5.7	93.6%	21.5	116.5%
第3四半期	39.0	93.6%	15.8	93.5%	2.4	-8.0	31.0	4.5	83.5%	26.3	110.3%
第4四半期	31.0	83.5%	21.5	98.6%	2.7	0.7	31.7	4.6	80.2%	23.5	109.9%
上期	39.6	101.8%	37.5	103.0%	4.2	-0.6	39.0	5.7	93.6%	42.2	112.0%
下期	39.0	93.6%	37.3	96.4%	5.1	-7.3	31.7	4.6	80.2%	49.7	110.1%
年度計	39.6	101.8%	74.8	99.6%	9.3	-7.9	31.7	4.6	80.2%	91.9	111.0%
							29.7	4.3	75.1%	93.9	113.4%

※ホクレンの対策を考慮した推計値

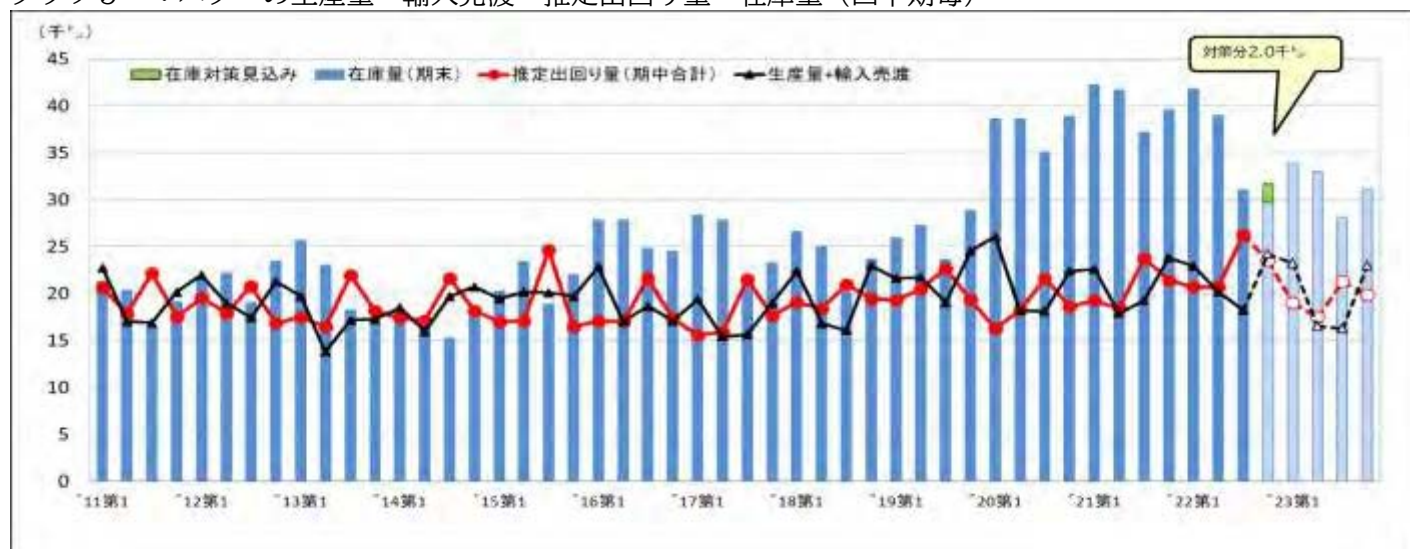
※対策分を考慮した出回り量

表5'-2: 2023年度のバターの需給(見通し)

(千トン)

	期首在庫量		生産量		輸入 売渡し	過不足	期末在庫量			推定出回り量	
	A	前年比	B	前年比	C	B+C-D	A+B+C-D	月数	前年比	D	前年比
第1四半期	29.7	75.1%	20.3	96.9%	2.9	4.2	34.0	4.4	81.4%	19.0	91.6%
第2四半期	34.0	81.4%	16.1	97.6%	0.4	-1.0	33.0	4.3	84.5%	17.5	81.5%
第3四半期	33.0	84.5%	16.2	102.3%	0.1	-5.0	28.0	3.7	90.3%	21.3	81.0%
第4四半期	28.0	90.3%	22.9	106.6%	0.1	3.1	31.1	4.1	98.2%	19.8	84.5%
上期	29.7	75.1%	36.4	97.2%	3.3	3.3	33.0	4.3	84.5%	36.5	86.5%
下期	33.0	84.5%	39.1	104.8%	0.2	-1.8	31.1	4.1	98.2%	41.1	82.6%
年度計	29.7	75.1%	75.5	101.0%	3.5	1.4	31.1	4.1	98.2%	77.6	84.4%

グラフ5': バターの生産量・輸入売渡し・推定出回り量・在庫量(四半期毎)



【2022年度のバター需給の見通し】生産量は74.8千トン・前年比99.6%、推定出回り量(12月以降の対策除く)は91.9千トン・同111.0%となる見通し。輸入売渡しは9.3千トンと仮定(※)し、年度末在庫量は31.7千トン・同80.2%(対策込みでは29.7千トン 75.1%)となる見通しである。在庫量については、ホクレンが取り組む需要確保対策により、年間で約4.5千トンの削減効果を見込んでいる(上記出回り量に4-11月の対策見込含む(約2.5千トン))。

【2023年度のバター需給の見通し】生産量は75.5千トン・前年比101.0%、推定出回り量は77.6千トン・同84.4%となる見通し。輸入売渡しは3.5千トンと仮定(※)し、年度末在庫量は31.1千トン・同98.2%となる見通しである。

※推定出回り量は、乳製品乳価引き上げとこれまでの需要減少の相関を基に4月以降の需要を推定して予測。

※2022年度枠残量から輸入売渡しを推定、2023年度枠の輸入売渡しおよびTPP11、日EU・EPAによる民間貿易については、加味していない。

6. 都府県の生乳需給の動向

表6-1：2022年度の都府県の需給（網掛け：実績）

（千トン）

	生乳供給量		飲用等向 処理量		生クリーム等向・ チーズ向		A-B-C	移入量 (道外移出量)D		脱脂粉乳・ バター等向	
	A	前年比	B	前年比	C	前年比			前年比		前年比
4月	291	100.4%	285	99.4%	6	104.8%	1	31	99.6%	32	108.4%
5月	297	99.8%	302	98.6%	5	101.9%	-10	37	102.1%	27	119.4%
6月	277	99.9%	300	97.0%	5	101.5%	-27	43	90.5%	15	139.1%
7月	272	100.5%	298	100.3%	5	103.5%	-31	48	104.6%	17	116.9%
8月	261	98.4%	285	100.0%	5	99.7%	-29	48	106.0%	19	92.4%
9月	256	98.6%	298	99.1%	5	100.9%	-47	55	97.4%	9	78.7%
10月	267	98.9%	302	99.3%	5	99.0%	-41	51	101.2%	10	98.6%
11月	259	97.6%	279	98.5%	6	97.6%	-26	38	98.6%	12	82.1%
12月	269	97.1%	264	96.1%	6	100.0%	-1	33	94.3%	32	102.2%
1月	275	97.8%	273	95.8%	5	100.0%	-4	32	93.4%	28	114.1%
2月	254	98.1%	260	97.1%	5	100.0%	-10	33	95.0%	23	104.5%
3月	290	97.9%	273	96.4%	6	100.0%	11	30	95.7%	40	107.1%
第1四半期	866	100.0%	887	98.3%	16	102.7%	-37	111	96.6%	74	117.8%
第2四半期	789	99.2%	881	99.8%	15	101.4%	-107	151	102.3%	44	97.0%
第3四半期	795	97.9%	845	98.0%	17	98.9%	-67	121	98.4%	55	96.4%
第4四半期	819	97.9%	807	96.4%	15	100.0%	-3	94	94.6%	91	108.5%
上期	1,654	99.6%	1,767	99.0%	31	102.1%	-144	262	99.8%	119	109.1%
下期	1,614	97.9%	1,651	97.2%	32	99.4%	-70	216	96.7%	146	103.6%
年度計	3,268	98.8%	3,419	98.2%	63	100.7%	-213	478	98.4%	265	106.0%

表6-2：2023年度の都府県の需給（見通し）

（千トン）

	生乳供給量		飲用等向 処理量		生クリーム等向・ チーズ向		A-B-C	移入量 (道外移出量)D		脱脂粉乳・ バター等向	
	A	前年比	B	前年比	C	前年比			前年比		前年比
4月	284	97.5%	272	95.4%	6	100.0%	7	29	94.1%	36	112.9%
5月	290	97.6%	294	97.5%	5	100.0%	-9	36	96.7%	27	97.5%
6月	270	97.3%	293	97.8%	5	100.0%	-28	41	94.8%	12	78.8%
7月	262	96.5%	293	98.3%	5	100.0%	-35	50	103.4%	14	83.7%
8月	253	96.8%	275	96.5%	5	100.0%	-27	44	92.1%	17	89.1%
9月	249	97.3%	292	98.0%	5	100.0%	-48	56	100.9%	8	94.5%
10月	261	97.6%	292	96.6%	5	100.0%	-37	46	91.2%	10	95.1%
11月	255	98.4%	277	99.4%	6	100.0%	-28	41	108.3%	13	106.8%
12月	269	99.7%	265	100.5%	6	100.0%	-3	34	101.9%	31	95.6%
1月	274	99.7%	271	99.2%	5	100.0%	-2	32	100.6%	30	105.6%
2月	263	103.4%	266	102.5%	5	100.0%	-8	34	104.0%	26	115.6%
3月	289	99.6%	270	98.9%	6	100.0%	13	30	100.2%	42	104.8%
第1四半期	844	97.5%	860	96.9%	16	100.0%	-31	106	95.3%	75	100.1%
第2四半期	764	96.8%	860	97.6%	15	100.0%	-111	150	98.9%	39	88.1%
第3四半期	784	98.6%	834	98.7%	17	100.0%	-67	121	99.4%	54	98.0%
第4四半期	826	100.8%	808	100.2%	15	100.0%	3	96	101.7%	98	107.7%
上期	1,608	97.2%	1,719	97.3%	31	100.0%	-142	255	97.4%	113	95.6%
下期	1,609	99.7%	1,642	99.4%	32	100.0%	-65	216	100.4%	152	104.1%
年度計	3,217	98.4%	3,361	98.3%	63	100.0%	-207	472	98.7%	265	100.3%

【2022年度都府県の生乳需給の見通し】「生乳供給量」は3,268千トン・前年比98.8%、「飲用等向処理量」は3,419千トン・同98.2%となる見通し。北海道から都府県への「移入必要量(道外移出量)」は、478千トン・同98.4%となる見通し。

【2023年度都府県の生乳需給の見通し】「生乳供給量」は3,217千トン・前年比98.4%、「飲用等向処理量」は3,361千トン・同98.3%となる見通し。北海道から都府県への「移入必要量(道外移出量)」は、472千トン・同98.7%となる見通し。

7. 生乳需給の動向

表7-1：2023年度の脱脂粉乳ベース生乳需給（網掛け：実績）

脱脂粉乳 ベース	生乳供給量		生乳需要量						生乳供給量と 生乳需要量 の差 C=A-B	輸入売渡し (生乳換算) D	輸入売渡し 後の過不足 (生乳換算) E=C+D	※参考 在庫削減対策を 考慮しない場合の 過不足 E+対策分(生乳換算)
	A	前年比	B	前年比	飲用等向		乳製品向					
						前年比		前年比				
2012年度	7,549	101.1%	7,533	99.0%	4,072	98.2%	3,461	100.1%	16		23	23
2013年度	7,390	97.9%	7,567	100.5%	4,011	98.5%	3,556	102.7%	▲ 177	63	▲ 114	▲ 114
2014年度	7,271	98.4%	7,494	99.0%	3,965	98.8%	3,529	99.2%	▲ 222	302	80	80
2015年度	7,352	101.1%	7,427	99.1%	4,012	101.2%	3,415	96.8%	▲ 75	200	124	124
2016年度	7,291	99.2%	7,455	100.4%	4,053	101.0%	3,402	99.6%	▲ 164	63	▲ 101	▲ 101
2017年度	7,241	99.3%	7,454	100.0%	4,073	100.5%	3,381	99.4%	▲ 213	440	227	227
2018年度	7,234	99.9%	7,447	99.9%	4,083	100.2%	3,365	99.5%	▲ 213	198	▲ 15	▲ 15
2019年度	7,318	101.2%	7,285	97.8%	4,075	99.8%	3,210	95.4%	33	99	132	132
2020年度	7,389	101.0%	7,355	101.0%	4,086	100.3%	3,269	101.8%	34	24	58	274
2021年度	7,597	102.8%	7,412	100.8%	4,050	99.1%	3,362	102.8%	185	8	193	404
2022年度	7,519	99.0%	7,481	100.9%	3,987	98.5%	3,494	103.9%	38	3	40	296
2023年度	7,424	98.7%	6,996	93.5%	3,923	98.4%	3,073	87.9%	428	10	438	438

表7-2：2023年度のバターベース生乳需給（網掛け：実績）

バター ベース	生乳供給量		生乳需要量						生乳供給量と 生乳需要量 の差 C=A-B	輸入売渡し (生乳換算) D	輸入売渡し 後の過不足 (生乳換算) E=C+D	※参考 在庫削減対策を 考慮しない場合の 過不足 E+対策分(生乳換算)
	A	前年比	B	前年比	飲用等向		乳製品向					
						前年比		前年比				
2012年度	7,549	101.1%	7,677	97.6%	4,072	98.2%	3,606	97.0%	▲ 129	238	109	109
2013年度	7,390	97.9%	7,635	99.4%	4,011	98.5%	3,624	100.5%	▲ 245	91	▲ 153	▲ 153
2014年度	7,271	98.4%	7,588	99.4%	3,965	98.8%	3,624	100.0%	▲ 317	330	13	13
2015年度	7,352	101.1%	7,572	99.8%	4,012	101.2%	3,560	98.2%	▲ 220	324	104	104
2016年度	7,291	99.2%	7,526	99.4%	4,053	101.0%	3,472	97.5%	▲ 234	294	59	59
2017年度	7,241	99.3%	7,508	99.8%	4,073	100.5%	3,435	98.9%	▲ 267	236	▲ 31	▲ 31
2018年度	7,234	99.9%	7,683	102.3%	4,083	100.2%	3,600	104.8%	▲ 448	458	10	10
2019年度	7,318	101.2%	7,715	100.4%	4,075	99.8%	3,640	101.1%	▲ 397	523	126	126
2020年度	7,389	101.0%	7,480	97.0%	4,086	100.3%	3,394	93.2%	▲ 91	331	240	240
2021年度	7,597	102.8%	7,790	104.1%	4,050	99.1%	3,740	110.2%	▲ 193	210	18	230
2022年度	7,519	99.0%	7,943	102.0%	3,987	98.5%	3,956	105.8%	▲ 424	230	▲ 194	▲ 132
2023年度	7,424	98.7%	7,475	94.1%	3,923	98.4%	3,552	89.8%	▲ 51	86	35	35

前頁までの見通しを踏まえた2023年度の「生乳需要量」見通しは、

- ① 脱脂粉乳ベース（脱脂粉乳需要量を満たすための生乳必要量）で6,996千トン
- ② バターベース（バター需要量を満たすための生乳必要量）で7,475千トン

2023年度の「生乳供給量」見通し7,424千トンと比較すると、単年度での需給見通し（輸入売渡除く）は、

- ① 脱脂粉乳ベースで+428千トン。
- ② バターベースで▲51千トン。

8. 需給動向を踏まえた当面の課題と対応について

(1) 当面の生乳及び牛乳乳製品の需給緩和への対応について

- ✓直近の生乳生産は生産抑制の効果が全国的に表れており、2022 年度下期は上期よりも減少率が更に拡大している。一方、家庭内需要は度重なる物価上昇を背景とした家計の節約志向や 11 月 1 日以降の飲用向・はっ酵乳等向の乳価引き上げに伴う製品価格改定等が消費を押し下げると見込んでいたものの、現時点での減少幅は限定的となっている。また、都市部を中心とした人出の増加から業務用需要についても一定程度回復している。
- ✓年末年始には、業界自らの消費拡大運動や業界内外を巻き込んだ施策、乳製品工場の生乳処理最大化、生産者の生産抑制などの継続的な取り組みに加えて、消費者の牛乳乳製品への理解と消費への支持が重なったことで、大きな混乱無く乗り切ることが出来た。
- ✓しかしながら、これからも食料品や電気料金等の値上げによる家計への圧迫はより大きくなり、牛乳乳製品の消費は更にマイナスに作用する可能性がある。また、春休みには学校給食用牛乳が休止となり一時的に需要が減退する一方、生乳生産量は春先に向けて増加することから、春休み～GW にかけて処理不可能乳の発生の懸念は予断を許さない状況が続く。
- ✓引き続き生乳需給動向を注視しつつ、きめ細やかな需給情報の把握と共有化に努めるとともに、消費拡大運動や需要喚起等を継続的に進め、危機感を緩めることなく業界一丸となって対応していく必要がある。

(2) 乳製品需給への対応について

- ✓生乳生産資材価格の高騰や初生牛等の個体販売価格（副産物収入）の急落等により、生産者の厳しい経営状況が続いている。この状況を踏まえて、乳業メーカーと北海道（ホクレン）では新年度から乳製品向全用途の乳価引き上げが合意された。今回の乳製品向乳価の上げ幅は過去にはない大きなものであることから、製品価格改定に伴い今次需給見通し（1 月 27 日公表）よりも更に乳製品需要が下回ることも懸念される。
- ✓脱脂粉乳の需給は、コロナ禍による急激な需要減少等により在庫の過剰を招いたが、2023 年度は生産者の生産抑制による効果が発揮されつつも、乳価引き上げによる需要の減少が想定される。単年度のギャップは生乳換算 40 万ト超と供給が需要を上回ると試算される中、在庫削減対策を講じない場合、再び在庫量は 10 万トを大きく超過すると見込まれる。
- ✓そのため、J ミルクにおける全国協調の在庫削減対策について、目標である 2019 年度末在庫数量並みに向けて、需給ギャップの解消と在庫低減に対する国による支援を活用しつつ継続して取り組む方向であるほか、北海道（ホクレン）においても生乳販売対策等を講じることが決定されていることから、生産者・乳業者・国の 3 者による在庫削減対策によって確実な脱脂粉乳の需要確保が期待される。
- ✓脱脂粉乳とバターの需要不均衡拡大への対応と脱脂粉乳の需給ギャップ解消、並びに在庫削減は業界としての重要課題として取り組む必要がある。

(3) 2023 年度における需給安定化への取り組みについて

- ✓生産者の厳しい経営状況は、生産抑制に取り組む中で規模縮小、廃業等を加速させており、生乳生産については今次需給見通しより更に下回る可能性があり注視が必要である。今後の需給は不確定な要素が多いことから、年末にかけてのバター及び地域によって夏季の飲用等向の需給が一時的にひっ迫する可能性も否定できない。
- ✓しかしながら、現下の恒常的な需給緩和状況そのものを早急に均衡させるためには全国の生産者による生乳生産抑制と生乳需要の拡大が求められる。生産抑制の継続は生産基盤の弱体化を招く恐れがあるが、需給均衡は円滑な生乳処理のためには不可欠であり、牛乳乳製品の市場価値の毀損を防ぐこととなるとともに、生産者の厳しい経営状況に対する消費者・小売流通の理解に繋がることで製品価格に反映させやすい環境整備の後押しとなる。
- ✓併せて、引き続き国産牛乳乳製品需要を持続的に維持・拡大するため牛乳の栄養的・健康的価値、経済性の訴求や酪農乳業に対する理解醸成、需要拡大についても業界で結束して一層強化する必要がある。

(4) 中長期的な需給課題への対応について

- ✓酪農乳業は、栄養価の高い牛乳乳製品を消費者へ安定的に届け国民の健康に貢献することや食料の安定的な供給を目指した国内自給率の向上など社会的責任を担っており、この産業が未来に向けて持続的に発展していくためには、乳の価値を高め、産業全体の規模を維持・拡大することが不可欠である。生乳需給はこれまでひっ迫と緩和を繰り返し、その都度、生乳生産量の増減を基本に調整を余儀なくされてきたため、発展に影響を及ぼしている。
- ✓生乳の特性から保存性の高い脱脂粉乳・バターで需給調整を実施してきたが、コロナ禍で3年が経過しているなか、急激な需要の減退により、乳製品在庫の積み増しや季節的な処理不可能乳の発生懸念などの需給調整上の課題が浮き彫りとなった。
- ✓一方、近年、台風等の自然災害のリスクや北海道と都府県、都府県内でも東西における生産量のアンバランスと需給調整負担の偏在化により、全国的な需給調整機能の強化に向けた対応が欠かせない状況となっている。
- ✓国は食料安全保障の強化に向けた施策の見直し議論を進めており、国産牛乳乳製品需要の回復や拡大に対応した安定的な供給のためには、これまで同様に国の支援は不可欠である。同時に、酪農乳業界として安定的な産業の発展や生産基盤の維持・拡大に向けて、需給緩和時・ひっ迫時それぞれで生じる課題に迅速かつ柔軟な対応を図るべく、業界内で需給調整に係る議論を深め、体制の構築を図る必要がある。